

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1)担当支部:	北海道支部	(2)記載者氏名:	海川 敏雄	会員番号:	10981	事務局整理記入欄	北海道 - 233
分水嶺区分:	H222梯子岳～H223 630.7～H2235P610	(3)山行日:	2006年 3月 27日	(4)天候:	吹雪後晴れ		

(5)参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

海川敏雄	10981			横内泰美	10687		
片岡次雄	12093			丹保勝也	厚沢部町		
計				計			
2名				2名			

(6)山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:		中野川林道西股 中ノ沢、上ノ沢間の尾根 梯子岳 630.7 P610 630.7南尾根 スノーモービル駐車地点											
アプローチ:		函館 R228 木古内 中野川林道											
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)～(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	モービル駐車地点	桂岳	140	23	32.0	41	47	15.1	122		7:55		
分水嶺到達点 H222	梯子岳 562.7	桂岳	140	22	43.7	41	47	56.9	567	9:45	9:55	B-4	(8), (9)
	P500地点	桂岳	140	22	20.2	41	47	39.1	504	10:20	10:25	B-4	(9)
	P590地点	瓜谷山	140	22	1.2	41	47	31.9	605	11:00	11:15	B-4	(9)
H223	630.7	瓜谷山	140	21	30.3	41	47	13.5	637	12:00	12:05	B-4	(9)
	P630地点	瓜谷山	140	21	10.7	41	47	8.1	627	12:15	12:15	B-4	(9)
H2235	P610地点	瓜谷山	140	21	10.7	41	46	54.1	615	12:25	12:30	B-4	(9)
	(ここから引き返す)												
分水嶺離別点H223	630.7	瓜谷山	140	21	30.3	41	47	13.5	637	12:45	12:50	B-4	(9)
歩行終了点	モービル駐車地点	瓜谷山	140	23	32.0	41	47	15.1	122	14:25			
総歩行時間(休憩時間を除く):												6時間15分	

(7)三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
H222	梯子岳 562.7				積雪のため発見できなかった。
H223	630.7				同上

(8)人工施設の現況および地形図との相違点

梯子岳頂に反射板が2基建てられ、それぞれが南北を向いて立っている。「北海道電力株式会社梯子岳反射版 製作昭和57年6月」と記されている。

(9)水および植生に関連した特記事項

樹木はブナが多く、他にダケカンパ・イタヤカエデ・ツゲ・ホウノキ等も見られる。

(10)その他の特記事項

木古内町鶴岡から中野川林道を進み、約13km入った、道が大きく右に蛇行する地点(林道が二手に分かれている)までスノーモービルで運んでもらう。西股川対岸の中ノ沢と上ノ沢に挟まれた尾根に取りつき梯子岳へ。梯子岳からP590 630.7 P610(前回の離別点)まで進み、引き返して、630.7の南東に延びる小尾根を、ガ口の沢を左手に見ながら下降し、モービル駐車地点へ。この地域は取りつき口までの距離が長く、最も踏査しにくい場所であった。最後に残ったこの地域を今日踏破できた喜びは大きい。先日瓜谷山の稜線から白銀に輝く秀峰に目を奪われたことがあったが、この峰は梯子岳の南に位置する500m峰であった。鋭く切れ落ちていて渡れないので、北側を巻いて頂上に立ったが、梯子岳・630.7峰と共に忘れ難い峰となった。ついに完了したのだ、白き峰々に乾杯!
--

(11)写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明: